

2019年
初夏号
Vol.26

幸義会だより

岡山東部脳神経外科

令和への期待と夢を持ち続けることの大切さ

理事長 滝澤 貴昭



令和を迎え、皆様はどんな期待を抱いておられるでしょうか。私は、昭和の高度成長期に育ち、日本が最も国力をつけながら世界のトップに上り詰めていく勢を経験したので、最近の日本や日本人の保守的な姿勢をやや歯がゆく感じています。私の名前は「貴昭」であり、昭和の時代に貴い人になってほしいとの親の願いが込められたものと聞いていますが、二世も前の物となつてしまふ、複雑な気持ちもあります。自分が時代の遺物にならないようにと気を引き締めなおしています。

さて、川口教授の講演の最後に、自分自身の過去を思い出していました。私は、好奇心の塊みたいな子供だったようで、三歳くらいに、親が買った真空管ラジオからどうして音が鳴るのか不思議で、裏蓋をこじ開けて中を覗くようとして困らせたそうです。小学4年生の頃からは真空管ラジオやアンブの製作が三度の飯よりも好きでしたが、中学一年からは新しい技術であるトランジスタ製品作りが変わり、アマチュア無線もはじめました。高価な器械やリモコンで動かせるアンテナなど買えるはずもなく、屋根に上がって手でアンテナを動かしていました。すると台風のために、割れた瓦の雨漏りで親にこつぱど叱られるので、台風シーズンの休日の日課は一人でする瓦の葺き替え作業でした。



また中古のテレビを利用して関西の放送を見てやろうと2階の屋根に上がってアンテナをいじっているときに、感電してしばらく手が離せず往生したことがあります。吹き飛ばされていたら、落ちていたかも知れませんが。このころに培われた手先の器用さと集中力は脳外科医としてはとても役立つものと思っています。高校生時代には数学と物理がとても好きになり、当時花形と成りつつあった原子力に興味を持ち、高校2年生までは原子力発電所の所長を目指していました。しかし高2の1973年の第1次オイルショックが起こり、世界中が混乱するさなかに将来の不安を感じて医学部に進路希望を変えました。でも高校生の私は、医学自体には興味が多かったもので、とりあえず医師の資格を取ってから工学部の大学院に進み人工臓器の開発など生かしたいと漠然と考えていました。ただし医学部を終えるころには、一応医師になる以上目の前にいる人がけがが、あるいは病気になるのがお産であろうと、と何となく病気になるのがお産であろうと決意し、大学の医局に入らずに、野戦病院のような救急病院に就職しました。そこが、たまたま脳神経外科の専門病院だったため、そのまま専門医となりました。たくさん脳の腫瘍や脳動脈瘤の手術を経験でき、さらにパーキンソン病やてんかんの手術に興味があり、その勉強をする過程で脳神経内科の専門



が下垂体の経路的内視鏡手術の普及に貢献され、宮崎先生が悪性脳腫瘍の術中蛍光診断や手術中の腫瘍内化学療法を取り入れて成績を上げています。以前から血管内治療は行っていましたが、船橋先生の加入により、症例数の増加と成績の向上が得られていきます。血管内治療指導の寺井先生も、後継者の教育という生きがいを得られ、さらに活き活きと診療に専念していただいております。医師以外のスタッフも、二十歳代から勤務し始めた方たちの多くがアラフォー世代になり、新たに加わっていただく二十歳代の後輩達を指導しながら、調和のとれた職場になってきています。職員全員で医療安全や感染対策などに自ら取り組む姿勢がみられるよう

門医資格も得ることになりました。また1981年春、医者になってちょうど一年たった時に一月休みを取り、当時アメリカの中で最も危険な街と言われたデトロイトの総合病院集中治療室に研修に行きました。そこではアジアの発展途上国からアメリカでの就職口をもとめて研修に励む若い医師たちと知り合い、自分の恵まれた環境に感謝するとともに、帰国してからはさらに頑張らねばと思われ、日本人と知られると命の保証がないと言われており、1982年には南カルフォルニア大学に、新しく開発されたCT誘導定位手術の見学に行き、日本で最初にその装置を臨床に使い始める機会を頂きました。1800万円もする高額な器械でしたが、私の好奇心は強く刺激され、特別な精度が要求される稀な手術を除いては、もっと安く使いやすい装置で十分ではないかと考えました。そこで特許には触れないように、独自の設計図を書いて下町の鉄工所を訪れ、40万円程度で定位手術装置を作りました。また7万円のパソコンポケットコンピュータで一週間かかるプログラムを組みむり、手計算で一時間かかる数式を瞬時に計算したり、プリントアウトしたりできるようにしました。この時は得意な数学が役立ちました。二台機からは厚生省の医療機器の認可を得て二百万円で購入し、5つの病院で使っていました。とくに琉球大学では最先端の脳腫瘍治療に使われ論文にも使っていました。さらに1985年に東京大学にて脳外科手術支援装置であるニューロナビゲーターが開発され世界的に脚光を浴びました。しかし、私にとっては、それは、ただ現在ではないことと、さらにその精度がかなりアウトなことには不満がありました。そこで1987年秋に東京の三鷹光器という会社に話をもち込み、1988年8月に第一号機が出来上がったのが、現在も当院で使用されているニューロサットのプロトタイプです。三鷹光器は、本場に小説の下町口ケットのような会社ですが、私のアイデアを忠実に具現化していただきました。これについては、当院ホームページにて、日本定機能脳神経外科学会ニューロシステムに載った開発物語をご覧いただければ幸いです。これも厚生省の医療機器としての認可を受けて販売し、当時の世界最高水準の手術支援装置と自負しましたが、装置の性能を十分に発揮できるほどにはCT/MR画像の取り込みやコンピュータグラフィックなどの進歩が追いついておらず、あまり普及できませんでした。現在は保険にも取載され、またこういう支援装置を用いないで手術を失敗すると裁判に負ける時代になりましたが、開発当時の学会発表では大御所の教授から、若造はそんな装置を考へる前に、もっと地道な経験を積み叱咤されることもありました。その後1993年にメキシコで開かれた世界定機能脳神経外科学会の会長講演で、群馬大学大江教授がニューロサットの使用実績と将来性について紹介してください、また琉球大学からもたくさん手術困難な症例に有用であった報告論文を出していただきましたし、多くの国際学会でシンポジストを務めさせていただく機会を与えられました。4度の改良にて完成に至った現在のニューロサットは25年前から全く姿を変えずに現役で活躍しており、当院の若い先生たちにも使われており、先生たちにも使われてお



最近では臨床研修医制度により自分で研修先や就職先の病院を探す時代となり、専門科によっては大学の医局に入局しない選択肢も当たり前となつてきています。医学部・脳神経外科学会の前では私の経歴は異色でした。大学医局に入らず自分で就職先や留学先を決めたので「糸の切れた風のような脳外科医」と言われたり、新たな手術支援装置を開発するために、売れるものを作らないと継続できないので「そろばん片手に脳外科医をやっているやつ」と陰で言われていたそうです。しかし、結果としては、医局に入った場合と比べると、才能があるか、またころからたくさん恵まれた難しき手術に挑戦させてもらったので、自信をもって開業できましたし、さきにも述べたように脳神経外科医としては珍しく脳神経内科専門医試験にも合格し、30年近く専門医資格を維持するための研修を続けてきたので、一般の脳外科医よりは脳神経疾患全般についての知識が多く、地域医療を支える基盤となっているのではないかと自負しています。

長々と私の過去について書いていたのが、ただの自慢話のようで恐縮ですが、川口教授と同世代の私もちよつと似通ったスピリットはあったのかなと感じたものです。現在、誰もが利用して当たり前となったIT、IoT、AI、ネット購入社会の到来について、平成に入つた頃の日本人で予測できた人がどれほどいたことでしょうか。令和の時代の社会や科学の進歩は、平成よりもさらに加速することでしょう。今はまだ誰も思っていないか、夢物語のようなことが、当たり前となるのです。ですから、子供さんや、若者には、今の知識だけで自分の将来を決めてしまわず、たくさん夢を持つてほしいと思います。そして、いまは役に立つかどうかかわからない勉強や知識の一部が将来の自分にとって、とても大切なものとなるかも知れないのです。そんな無限大の未来をもつた子供さんを支える大人たちにも、子供たちの夢を大切にあげてほしいと思います。夢のために努力できる人は、どんな境遇になっても頑張れる能力が備わっていると信じます。そして世界からうらやましがられる令和時代の日本になってほしいと夢見ています。

※所々散りばめた写真は、通所リハビリテーションご利用者の作品、日頃の様子です。

岡山東部脳神経外科東備クリニック 開院21年を迎えました

ご入院中の患者様・通所リハビリテーションのご利用者様と一緒に食事をお祝いしました。



研修医紹介



医師 鈴木 凛
はじめまして、鈴木凛と申します。平成30年12月の1ヶ月間、初期臨床研修医として岡山県立総合医療センターにて研修させていただきました。

私は生まれてから高校卒業までは名古屋で過ごし、慶應義塾大学経済学部で2年間経済学を学んだあと、長野県の信州大学医学部に進学しました。その後は神奈川県横浜市のけいゆう病院というところで研修医として働いて1年半ほどが経ち、現在に至ります。

岡山県は初めて訪れるのでとても楽しみにしていました。週末は倉敷に観光に行き、大原美術館にも足を運びました。芸術にはあまり明るくないのですが、フレデリックの7枚にもわたる大作には心を揺さぶられました。みなさまも長野県



医師 鈴木 靖美
初期研修医として、平成31年1月に岡山県東部脳神経外科病院で1ヶ月間研修させていただきました。木靖美と申します。

出身は東京女子医科大学医学部で、現在は神奈川県横浜市のけいゆう病院で2年間の研修をさせていただいております。今回の研修は到着当日の手術から始まり、手術の機会に恵まれた1ヶ月間で、急性期から、手術、その後の管理までの過程をみて、幅広い疾患を経験することができました。新鮮な体験や発見とともに、一生の財産となる物事の考え方を



医師 小池 一康
2月の間、岡山県東部脳神経外科にて研修させていただきました。初期研修医2年目の小池一康と申します。

院から、同期6人のうち最後の1人として地域研修させていただきました。至らぬ点が多々ありましたが、お世話になりました。誠にありがとうございます。生活面から研修まで多くの方々に、ご支援いただき感謝してもしきれないです。滝澤先生、船橋先生をはじめとしたスタッフ皆様から脳神経外科ならではの診

はなかなか来る機会がないのではないのでしょうか。軽井沢や上高地などの避暑地が有名ですが、個人的には阿智村がおすすめです。日本有数の星空がみられるスポットとして近年話題になってきていて天候に恵まれれば見渡す限りの星の煌きを芝生に寝転がりながら眺められます。とても寒いので十分な防寒具が必須です。

仕事では先生方をはじめ、スタッフの方々みなさまに大変お世話になりました。最初は慣れない環境下の中、やさしくフレンドリーに接してくださり、大変感謝しております。船橋先生は年齢が近いこともあり、頻繁にご飯に連れて行って可愛がってくださり、お兄さんのような存在でした。

1ヶ月間住んだことのある土地というのは、私のこれまでの人生の中でそう多くありません。岡山でのこの1ヶ月は大変貴重なものであり、僕の記憶に残り続けたいと思います。是非また再訪させていただきたいです。本当にありがとうございます。

や基本的な手技も教えていただき、大変実りのある研修をさせていただきました。4月からは小児科を専門とするため、直接手術に携わることがありますが、実際に目にしたことがあるだけでも科に関わらず、医師としての経験値につながると思っています。

また、皆様とおいしいお食事を囲んで打ち解けた話をして、楽しい時間を過ごしたことは一番の思い出になりました。最後になりましたが、先生方をはじめとして、至らない点ばかりの私を温かくサポートしてくださったスタッフの皆様ならびに今回の研修に携わっていただいたすべての方々、心より御礼を申し上げます。

療や手技など教えていただきました。私は4月から循環器内科へ進む予定ですが、今回の経験を活かして精一杯精進していきたいと思っております。研修以外では岡山の名所を教えてください。休みの日には後楽園直島、倉敷や温泉など素敵な場所をめぐり、美味しいものをたくさん味わいたいです。岡山の魅力を肌で感じることができたいと思います。横濱でも岡山の宣伝をしたいと思っております。

最後になりましたが、研修でお世話になったことを心から感謝申し上げます。また、来年度も後輩達へ変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

新年会が行われました

今年1月に職員の新年会が2回に分かれて行われました。永年勤続者表彰のお祝いも一緒に行いました。美味しい食事と一緒に他部署との交流がしっかりと図れ楽しい時間を過ごしました。



永年勤続表彰者

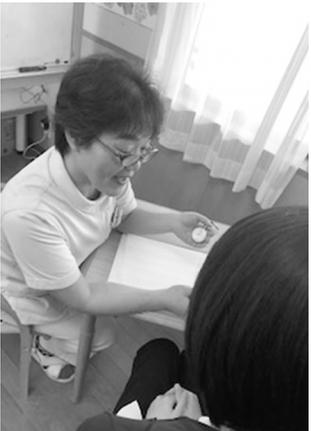
Table listing long-tenure award recipients for 20, 15, and 10 years, including names like 滝澤 貴昭, 南 政博, 榎本 満輝, etc.

お口についてこの勉強会が行われました

通所リハビリテーション介護職員 池上亜由美

通所リハビリテーションでは、平成30年10月より歯周病予防と早期発見、唾液の分泌の促進、誤嚥性肺炎の予防、会話などのコミュニケーションの改善、口腔機能の維持と回復を目的として取り組んでいます。更なる向上の為に、今回こしむねファミリークリニック歯科医院の越宗 伸二朗先生を招いて平成31年3月20日に通所リハビリテーション職員で口腔ケアについて勉強会を行いました。

河原 英雄先生の「かめれる入れ歯」胃ろう・認知症・胃腸改善」と言う動画を見せていただいた事です。胃ろうで寝たきりに近く認知症も発症され半年前は顔が無表情だった方が、入れ歯を調整し噛める食事が出る様になる事で半年後、



看護師による口腔内評価



勉強会当日の様子

産休・育児休暇を終えて病院に復帰しました

今後ともどうぞよろしく申し上げます。①産休中または育児中の思い出②子供にはどのように育ってほしいですか。

菊政 知佳

①今回2度目の育児休暇をいただきました。男の子2人、幸いなことに元気いっぱいです。元気が良すぎて次男が活発に動き出してから、家が工事中のような音がしていました。外遊びも大好きで、子供達の体力に負けないように我々大人も頑張らねばと思います。②周囲に流されず、自分の意思をしっかりと持った人間になってほしいです。



勝部まなみ

①平成30年6月に第2子となる女の子を出産しました。少し難産だったこともあり、産声を聞いた時は心よりホッとしたのを覚えています。新生児のときはよく寝てくれる子で手のかからない子でした。逆に当時2歳のお姉ちゃんも赤ちゃんと戻りには相当悩まされました。そんな時期もあっという間に過ぎていきました。育児中は子供達を何をしてあげようか？一緒に楽しめる事を探る毎日でした。大変だった時期も今思えば大切な時間でもとても良い思い出です。毎日一緒にいる事で子供の成長が身近に感じられ笑顔がたくさん見れた、私にとってとても充実した時間となりました。②人の気持ちを考え行動できる、思いやりのある子。



土井 智子

①第3子での出産・育児をとおらせていただきました。その間、第2子も保育園を退園し、産後まもなくから毎日公園や子育て広場など親子が集まる場所に出かけていました。そこで色々の方とお話したり情報収集したりしたのが1年間の良い思い出です。②誰にでも優しくできる人に。

